

こう使う！

# COLUMBUS 21

ENGLISH COURSE ③

ストーリー性に優れていると好評をいただいている  
中学校の英語教科書『COLUMBUS 21』。

現場では、どう評価され、どのように使われているのでしょうか。  
実際に使用している学校取材し、先生のインタビュー(前半)と  
授業レポート(後半)の2部構成でご紹介します。



## 熊谷市立熊谷東中学校



埼玉県熊谷市の東部に位置する公立中学校。昭和22年に桜田中学校として設置認可・創設し71年目、熊谷東中学校として統合されてから58年目を迎える伝統校であり、ラグビー日本代表選手を輩出するなど、文武両道の学校としても知られる。平成25年度から英語科の授業に「5ラウンドシステム」を取り入れ、今年が6年目の実践となる。

## 内田 陽先生

熊谷市立熊谷東中学校 英語科教諭

大学では英米文学を専攻。平成23年度より埼玉県公立中学校教員として勤務を始め、平成28年度から現職。男子バスケットボール部の顧問も務めており、英語に加え部活動でも熱のこもった指導をしている。

## 1年で教科書を5回学ぶ

本校の英語の授業は、「5ラウンドシステム」で行われています。これは、通常の授業のように、教科書をUnit 1から順に1年かけて取り扱うのではなく、**1年のうちに教科書を4~5回繰り返して学習する**というものです。リスニング、音読など、一つの学習スタイルに絞って、2か月ほどで全ユニットを学んだ後、再びUnit 1に戻り、次の学習スタイルで最後まで。これを5ラウンド行います。

### [1年生の場合]

※2・3年生はラウンド2を省く。(p16下段参照)

#### ラウンド1 リスニングによる内容理解

目標:概要理解ができる。

#### ラウンド2 音と文字の一致

目標:音と文字の一致ができる。

#### ラウンド3 音読

目標:音読ができる。

#### ラウンド4 穴あき音読

目標:文構造をマスターし、自己表現につなげることができる。

#### ラウンド5 リテリング

目標:ピクチャーカードを使い、教科書の内容を自分の言葉で語ることができる。

ストーリー性に優れた『COLUMBUS 21』は、**5ラウンドシステムと非常に親和性が高く、繰り返す効果が出やすい**といわれています。1年から3年までストーリーが繋がっているの

で、エピソードをフックにして学習内容を思い出させることができ、1学年の中、いわば横方向だけでなく、学年を越えて縦方向にも戻り、繰り返すことができます。

## 身近な話題と教科書的话题をリンク

『COLUMBUS 21』のもう一つの特徴として、その内容が、同世代の登場人物による身近なテーマであることが挙げられます。これにより生徒たちが感情移入しやすく、活発な発話につながられます。本校は授業の冒頭、帯活動として、いわゆるSmall Talkとよばれるもの(熊谷市では「かまいタイム(※1)」という名称)を中心に、生徒と英語でやり取りをする活動を行っています。**生徒の身近な話題と教科書的话题をリンクさせることができるので、英語を話すハードルが下げられ、なおかつ自然な流れでその日のラウンドの活動にもつなげていけるなど、非常にうまく機能しています。**

※1 教師が英語で生徒たちを「かまう」時間。授業をよりアクティブにすることをねらいとしている。



『COLUMBUS 21』2 p4

登場人物のほか、これまでのあらすじも紹介。ストーリー性を大切にしている。

## 生徒の活動量が飛躍的に向上

本校では、1年次に良質な英語を大量にインプットし、2年次から徐々にアウトプット量を増やしていき、3年次には与えられたテーマについて自分の言葉で語るができるようになるというグランドデザインを描き、授業を進めています。そのため、1・2年生では体系的な文法指導は行わず、**活動の中で出てきた文法項目をピックアップしたり、生徒の内側から出てきた疑問をフォローしたり**することで、文法理解を促しています。そうした「気づき」を得るためにも、その場で考えて話す、即興性のある会話をする経験が必要だと思えます。

そこで、私が担当する2年生では、帯活動を充実させ(p16~17参照)、テンポのよい授業を心がけています。帯活動の多くはペアやグループで行うものなので、仲間と協力することで英語を話すことへの抵抗も軽減され、英語が苦手な生徒の力の底上げをはかることもできます。また、教室の後ろに、自由に持ち帰って挑戦できる文法演習プリント「内田スペシャル」(通称、内スぺ)を設置して、個別に、必要に応じて挑戦できるような学習環境もつくっています。

結果として、自分の考えや聞き取った内容を積極的に伝えようとする生徒も増え、5分間のライティングで使う語数は、平均60語、多い生徒では100語を超えることもありました。

これはひとえに、5ラウンドシステムがうまく機能し、**英語を使う時間が圧倒的に増えた**ことによるものだと思います。何より、生徒の誰もが楽しそうに授業に参加している。教師としてこれほど嬉しいことはありません。

内田先生の授業は次のページでご紹介!

こう使う!  
**COLUMBUS 21**  
ENGLISH COURSE

# 内田先生の授業を レポート!

**2年4組** (生徒数:36名)

学習内容:Unit 6 リテリング(ラウンド4)

本時の目標:Unit 6の内容を自分の言葉で説明



英語教室に、前の授業を終えた生徒たちが続々と集まってくる。教室には英語の歌が流れていて、始業を待つ間に自然と英語モードに切り替わるよう環境づくりがされている。チャイムとともに、内田先生が“OK, let's try.”と発声。生徒たちは一斉にプリントに目を落とした。

**[帯活動1 LSD]**  
**最後の文を書き取るディクテーション**

最初に挑戦するのは、「LSD(Last Sentence Dictation)」の活動。ディクテーションの一つで、聞こえてくる連続した文章のうち最後の一文を書き取るというもの。この日は、1年生の教科書のUnit 10の音声を用いたLSDで、解答は“He can't come today.”。答え合わせの後、内

田先生が「can't……こういう感じのもの、いっぱいありますよね? For example……」と投げかけると、“Must!” “Could!”と声上がる。続けて先生が“OK, we call this 助動詞。Can you pick up more than 5助動詞?”と促すと、生徒たちは“May!” “Will!”などと、競うように例を挙げはじめた。ここで内田先生は、助動詞の一覧が示された副教材のページを示して、生徒たちに助動詞の表現の幅を確認し、次の活動に進んだ。

**[帯活動2 4 Corners]**  
**グループで助け合い文章を完成させる**

4 Cornersとは、一つの文章を四つに分割して教室の四隅に貼り、四人組になった生徒が分

担してそれを読みに行き、理解したことを共有することで、文章全体を再現するという活動だ。“Let's try 4 Corners. Move your desk.”の声を聞くや、四人組のグループをつかった生徒たち。6分の制限時間が告げられると、生徒どうして役割分担し、それぞれ教室の四隅へと移動しはじめた。教室には再び洋楽が流され、リラックスした雰囲気がつくれる。6分後、答え合わせの後に全員で全文を音読し、机を戻すと、いよいよ本時の内容、教科書Unit 6に入った。

**[Story Telling]**  
**本文内容を自分の言葉で説明する**

前述のとおり、授業は、教科書の全ユニットを1年間で4~5回繰り返して学ぶ「ラウンドシステム」で行われる。2年生のラウンド4では、ピクチャーカードを使って、本文の内容を自分の言葉で伝えるStory Tellingの活動を行う。

内田先生は、Part1~3まで、教科書全文を各自で音読させた後、ピクチャーカードを配付。表現を復習するために教科書を見てもよい時間を30秒だけ与えると、教科書を閉じさせた。

ここから、隣に座る人どうしのペア、前後に座る人どうしのペア、斜めに座る人どうしのペアと、次々とペアを変えながら、じゃんけんをしては、勝者が相手に30秒間でストーリーを話す、というのを繰り返していくのだが、これ



ペアになってStory Tellingを行う。Unit 6のピクチャーカードを使いながら教科書の内容を自分の言葉で伝える。

は、通称「修行」の時間だ。

実は隣どうしに座っていた「基本のペア」は「師弟関係」で結ばれている。年度の初めに、生徒全員に「クラスメートの誰に英語を教わりたいか」というアンケートをとり、その結果と成績、仲のよさを考慮して、内田先生が師匠と弟子のペアを作る。これにより、生徒どうし教え合い、学び合うという形が自然にできるだけでなく、評価やアドバイスをしやすい雰囲気ができるという。

**[Story Writing]**  
**話した内容を文字にする**

続いて内田先生がStory Telling Sheetと書かれたプリントを配付。その上部には、教科書本文から抜き出されたキーワードが9~10語示されており、その語を使いながら、自分の話した内容を英文に書く。教科書は見ないが、生徒たちは、繰り返し口にした文章とあって、さらさら鉛筆を走らせる。

その後、再びペアを変えながらStory Tellingの活動を行ったが、一度文字にして書いたことで整理されたのか、どの生徒も、書く前以上に、よどみなく話せるようになっていた。

活動が盛りだくさんで、まさに休む暇もなく話し続けた50分。生徒たちは充実感にあふれた表情で英語教室を後にしていった。

●Unit 6 A Therapy Dog

本文の内容:ニックとティナの姉弟がセラピードッグの訓練を受けている子犬のラスティを訪ねる場面。身近な動物である犬と人間とのかかわりや、盲導犬や介助犬の役割について理解する。  
なお、Unit 2のストーリーで、ニックが捨てられていた子犬を助けて施設にあずけるという伏線が張られている。

ラウンド	内容
1	リスニングによる内容理解:教科書の音声を繰り返し聞く
2	音読:さまざまな手法で音読練習を繰り返す
3	穴あき音読:本文の語を空欄にしたワークシートを用い、穴埋めしながら音読する
4	リテリング(Story Telling):ピクチャーカードを使いながら教科書の内容を自分の言葉で伝える ★
5	3年生のラウンド1(リスニングによる内容理解)の先取り学習

今日の  
授業はココ!



4 Cornersに取り組む生徒たち。自分が担当しているCornerの文章を読みに行く。

\*1年生ではラウンド2で音と文字の一致を行うが、2・3年生では行わず、その分、授業冒頭の帯活動とライティング活動の時間を長くしている。